

瓦谷山



瓦谷山だより



vol.56

発行日 2024年6月20日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<https://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<https://www.shinko-ji.jp/satoyama/>

ごあいさつ

今年の真光寺の桜はとてもきれいでした。お寺の向かいの城跡ともいわれる浅間山の桜も随分成長し、山全体に艶やかさを感じるほどでした。境内全域の木々も森と言ってよいレベルにまで成長し、初夏の真光寺の景観は目に見えて変化を遂げたように感じます。

さてお気づきの方もおられるかと思いますが、昨年暮れから観音堂の須弥壇の製作に勤しみ、春のお彼岸明けにようやく完成しました。例によって私の手作りです。左右の灯籠はオークションで手に入れました。中央の観音様はかつてご紹介したように先代住職のご寄進でお祀りさせていただいておりますが、須弥壇が出来たことで少し上から見下ろす形となり、より穏やかなまなざしを我々衆生に注がれているかの如くに感じられます。

この観音様が奉納されるまで観音堂を長年にわたりお守りくださった向かって左側の観音様は、埼玉県のお寺からお移りいただきました。そして右側には現在観音様の絵がお祀りされておりますが、このほど縁あって群馬から新たに観音様の尊像を奉安することとなりました。何もないところから始めた新伽藍の整備ではありましたが、さまざまなご縁によって多くの仏様をお迎えすることができますのは、まさに存外の喜びです。

浅草の観音様、清水の観音様、長谷の観音様を始めとして多くのお寺でお祀りされている観音様は、中国でも日本でも一番人気のある仏様です。もともとポピュラーなお経である『般若心経』は、観音様と釈迦の十大弟子の「舍利子（舍利弗）」との会話形式となっています。また『法華経』の中の「観世音菩薩普門品」は、観音様がすべての衆生を救うために三十三の姿に変化し、御名前を唱えた者の願いを叶え功德を施すと説き、独立した「観音経」として親しまれています。

さらに「南無喝囉怛那哆囉夜耶（なむからたんのーとらやーやー）」という特徴的な出だしの「大悲心陀羅尼」は、観音様のお徳を称えるお経ですが、この中で観音様のお名前は「阿唎耶婆盧羯帝爍鉢囉耶（おりやーぼりよきちーしふらやー）」と発音されます。これは観音様の梵名「アヴァロキテーシュヴァラ」を意味します。梵語（インドの言葉）で書かれた経典を中国語に翻訳する際に、「アヴァロキテーシュヴァラ」は「観世音」

「観自在」などと訳されました。観音の「観」は「見ている本体である私」、「音」は「私以外の他のもの」という意味で、「私」と「あなた」の関係を表すという説もあるようです。

『般若心経』の基となる「空」の教えでは、この世界は「あなたは私」「私はあなた」の関係性で成り立っているといえます。たとえば食べ物は私ではないけれど、食べれば私になり、必要ないものは後日排出され私ではなくなります。同じように私の血を蚊が吸えば、その血は私ではなく蚊になる。私たち人間は動物や植物を私に代えることで命を得ています。この世の中のすべてのものは、ある時は私、ある時は他の者になりながら一体として存在することが出来ているというのです。

私が命を長らえていくにはそうした他の者がいてこそ、他の命があればこそという現実が付くと、すべての人、すべてのものが愛おしく感じられ、慈悲の心が芽生えます。そして自分を愛するように、他者を愛する心が生まれると説きます。

見ること自在、聞くこと自在な観音様は、すべての存在が助けてくれているのだから、慈悲の心を忘れずに、おおらかで、偏ることなく、また自我の意識で偏屈にならず、広く深く自身や世の中を見、聞き、良い判断をしていきなさいということを教える仏なのではないかと思えます。

自身の受け止め方次第で人生は変わります。不幸のどん底にいるような気がしていたけれど、よく周りを見回してみたら、さまざまな姿をしたたくさんの仏さまがあちらこちらにいらっしやるではないか。そんなことは意外と多いものです。

お盆の季節となります。皆様の御参詣をお待ちしています。新しい観音様にお参りに来てください。

合掌
真光寺住職 岡本和幸

千葉テレビ「お昼の快傑」で真光寺が紹介されました。

(二〇二四年五月二十六日放送)

YouTubeで視聴になれます。下記QRコードからご覧
ください。



行事報告

◇春彼岸会

三月二十日、午前縁の会彼岸会、午後山門彼岸会を厳修しました。両法要共に多くの方にご参列いただき、ご先祖様や故人を供養しました。



住職による説教



当日は心地よい春の陽気



法要後は食堂でお弁当をいただきました



お焼香の様子

◇花まつり法要・檀信徒総会

三月三十一日、花まつり法要・檀信徒総会を開催しました。花まつり法要では、御詠歌奉詠の中、薬師堂中央に安置された花御堂の誕生仏に甘茶を灌ぎ、お祝いました。つづく檀信徒総会では、住職が資料をもとに会計や事業内容について報告。その後、書院に移動して宴会となり、楽しいひと時を過ごしました。



梅花講員の皆様による御詠歌の奉詠



誕生仏に甘茶を灌ぎました



檀信徒総会恒例のBBQ



住職より会計・事業内容について説明

真光寺の植物のご案内

雲南地湧金蓮（うんなんちゅうきんれん）

バナナや繊維作物の芭蕉と同じバショウ科の植物。原産地は中国雲南省あたりからインドシナ半島にかけての南方地域です。樹木ではありませんが、成長すると草丈一・五メートル程度になります。

「地中から湧き出た金色の蓮の花」のように見えることから名前が付きましたが、蓮の花ではありません。

黄金色の大きな花に見えるものは、苞（ほう）と呼ばれる花弁状の葉です。よく観察すると、苞の隙間に小さな花がたくさんついています。開花期は長く、四月から十一月くらいまで咲きます。存在感のある、不思議な雰囲気植物です。



カンボジアスタディツアー報告

真光寺副住職 國生徹雄

令和五年十二月十八日(月)～二十三日(土)

三日目 アンロンウィル寺・ポークノン寺訪問

プノム・アンダエク寺の境内に建てられた一人用コテージに宿泊した私たちは、翌日夜明け前の薄暗いうちに法衣に替えて本堂へ移動し、朝のお勤めに参加しました。静寂の中に響くカンボジア人僧侶による読経はとても新鮮で厳粛



プノム・アンダエク寺の朝食



二日目に宿泊したコテージ



プノム・アンダエク寺僧侶との交流



朝のお勤め

な雰囲気でした。その後作務衣に着替え、境内の清掃。外はまだ薄暗いままでしたが、外灯を頼りに皆で協力して一所懸命に境内の落ち葉をかき集めました。朝食は広々とした絨毯敷きの部屋で、カンボジア人僧侶、女性在家信者と共にいただきました。食後はカンボジア人僧侶との交流会が開かれ、その席上で、「私は普段、電話相談のボランティアをしています。皆さんは悩める人々の話を聞いたりすることがありますか」と質問してみました。一人の僧侶から「あります。お寺に来る信者さんの悩みを聞いたりして寄り添っています」という答えをいただきました。悩み、苦しんでいる人に僧侶が寄り添い、話を聴くのは当たり前のことかもしれません。しかし、外国の僧侶も私と同じ役目を果たしていることを知り、とても親近感が湧きました。

プノム・アンダエク寺を出発して向かったのは、アンロンウィル寺内にある「開発のための仏教(ブッディズム・フォー・デベロップメント)」というNGOの事務所。この団体は仏教の教えを活かして地域社会の発展や貧困解消のプロジェクトを実施しています。創設者で元僧侶のモニチュンダ氏に



アンロンウィル寺内で事業内容の説明を聴く

よるレクチャーでは、「これまで日本は経済的に発展してきたかもしれないが、それと引き換えに古来の宗教的価値観を毀損してしまった。私たちは今後発展しながらもカンボジアの宗教的価値観を守っていきたい」



小学校の図書館で読み聞かせをする様子

というお話が印象的で、日本の宗教的価値観の再構築について考えざるを得ませんでした。

次に隣のアンロンウィル小学校にある図書館を視察。この図書館は、一九九七年にSVAの支援によって建てられました。館内に子どもたちが集まり、先生が読み聞かせをする様子を見学しました。私は日本でSVAの絵本を届ける活動に参加し、日本語の絵本にクメール語(カンボジアの言語)の翻訳シールを貼るボランティアをしたことがあります。その絵本を手にした子どもたちが喜ぶ姿を目の当たりにし、活動の意義を実感しました。

ツアー三日目の最後に訪れたのはポークノン寺。バタンバン市内で一番大きな寺院です。現地僧侶と私たち日本人僧侶、それぞれの代表者が、自分たちの活動についてプレゼンテーションをした後、二つのグループに分かれてお互いに質問をぶつけました。現地僧侶の「日本のお坊さんは結婚してもよいと聞いたことがあるけれど、本当ですか?」という質問に、「本当です。結婚しています」と答えると、とても驚いている様子でした。出家者と在家者の生活に明確な違いがあるカンボジアにおいて、日本の僧侶の生活は不思議に感じられるのでしょうか。つづいて、現地僧侶に「僧侶になろうと思ったきっかけは何ですか?」とたずねたところ、「私は子どもの頃から勉強が好きで、勉強を教える人になりたいと思いました。カンボジアに

おける僧侶は、宗教的な指導者であると同時に、教育者として重要な役割も果たしています。そのような憧れから勉強を教える僧侶となり、今は大学で仏教や英語を教えています」と答えてくれました。私よりも若い僧侶でしたが、そのバイタリテイと志の高さに感嘆しました。



普段の活動を紹介するツアー参加者



ポークノン寺僧侶とディスカッション

四日目 バンアンピル小学校・HOC訪問

この日最初に向かったのはSVAが支援をしているバンアンピル小学校でした。バスが到着すると、全校をあげて盛大な拍手で出迎えてくれました。校庭に集まった生徒たちを前に、私たちは一人ずつあいさつと自己紹介をしました。大勢の前で話すのは少し照れくさい感じでしたが、子供たちの無邪気な笑顔を見ると、ここに来てよかったと、とても嬉しい気持ちになりました。サッカーやバレーボールをしたり、大縄跳びをしたり、紙飛行機を折って一斉に飛ばしたり、校庭で子どもたちと大いにふれ合った後、校舎内に移動し、校長先生からお話を伺いました。校長先生はこの小学校の卒業生です。内戦時代は、戦闘を避けるためこの村に多くの

人が避難してきて子どもも多かったが、村には竹とニツパヤシでできた粗末で小さな小屋しかなかったこと。一九九二年にSVAの支援により立派な校舎が建てられたこと。整った環境で教育を受けることができて、その重要性を感じ、これからの子どもたちへ質の高い教育をしていくために母校の教員になったこと等をお話してくださいました。



校庭で子どもたちに自己紹介しました



子どもたちと楽しく交流

バンアンピル小学校を後にし、次の訪問先であるHOC（ホープ・オブ・チルドレン）が運営する市内のカフェに移動して昼食の後、被災などによる孤児を救済するための児童養護施設HOCに到着、ここでも子どもたちの笑顔に迎えられました。もとはお寺の中で活動していたという経緯から、HOCの施設内には仏像がたくさんお祀りされています。ご本尊様にご挨拶の読経をした後、僧侶でHOCの代表でもあるムニー・ワンソヴェート師からHOCの活動について教えていただきました。

「具体的な取り組みは教育と職業訓練。教育としては、子どもたちはそれぞれ学校が終わると英語、日本語、PCのスキルなどを学び、将来の道につながるよう日本語検定などの取得に励

んでいます。職業訓練としては、施設の運営資金を作るために設立されたカフェHOCで語学や接客の実務訓練を行っています。その他にも田畑を持ち、有機農法で育てた作物は子供たちの日々の食料やカフェのメニューの一部になっています。」

お話の後は交流の時間。一緒にレクリエーションを楽しんだ子どもたちは、最後に私たちのために日本の国歌「君が代」を日本語で歌ってくれました。



HOCの活動を紹介するムニー・ワンソヴェート師



HOCの子どもたちとのレクリエーション

おわりに

今回のSVAカンボジアスタディツアーでは、SVAの活動のみならず、カンボジアの歴史や文化、仏教や現地僧侶の活動、SVAと関わりのある団体の活動について学ぶことができました。また、海外から見ると日本の僧侶のあり方は決してスタンダードではないことを実感しました。このツアーで得た学びや気づきを、これからの活動に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

【新連載】西上総風土記

第1回 西上総風土記というタイトルによせて

井口 崇

新連載として、「西上総風土記」と名付けたコラムを担当します。

私は、この「西上総」という地域のとらえ方と呼び方を好んで用いてきました。それは、古代から明治初期頃まで用いられた旧国名である「上総国」を東西に二分した、大掴みな区分であり呼称なのですが、この上総国の東京湾側の「西上総」と太平洋側の「東上総」では地理的にも歴史的にも文化的にも分けて考えるのが良いと思っているからです。そして、このコラムのタイトルに敢えて風土記という言葉を使いました。西上総の地誌、つまり西上総という地域の地形や気候、名所旧跡、物産など、自然と人が関わってきた事柄をとおして、地域の個性を探りたいからです。奈良時代の「風土記」や江戸時代の「風土記稿」のように。もちろん、古風土記は勅撰、新編風土記は官撰であるので、私がその拙い経験と知識で私撰して話題とするのは恐縮至極ではありますが、過去から繋がる西上総の風土、水土のありさまを探って発信していきたいので、しばらく本寺報の紙面でお待ちください。

■西上総

さて、西上総。先のとおり、上総を東西に分ける地域の呼び方は、いつも漠然と用いられてきた感があります。いつごろから使われるようになったのか、またその範囲はどこを指し、どこが東・西上総の境目になるのかなどといったことは明確ではない気がします。

これまでに、この西上総という地域名が使われてきたのは、「西上総文化会」という研究団体名があるほかは、「西上総の古墳」、「西上総の鎌倉街道」などといった「西上総の○○○」とするネーミングに表されてきました。そしてその範囲は、旧君津郡域(富津・君津・木更津・袖ヶ浦の4市域)が伝統的で、ほとんどがそれでいました。しかし今の私は、単純に旧上総国を東西に分けるのが良いと考えています。今の千葉県の自治体名で言うと、先の4市に市原市を加えた5市の地域になります。西上総という捉え方に近いものに内房あるいは内房総という呼称がありますが、行政的な区分で

はありませんし、路線名(内房線)や安房地域の内側(洲崎から富津岬)とされたりはするものの、その範囲も明らかではありません。

これに対して、東上総はどうかといえ、千葉県の機関として東上総教育事務所、東上総県民センターなどが置かれています。また、民俗学者の柳田国男の著作にもたびたび「東上総の村々…」とか、「千葉県東上総方面では…」などと記され、地域名称として認知され、定着しているように思えます。

■風土記



図1 千葉県分郡図(東西に分割する線は筆者が加筆)

『続日本紀』の和銅六年(713)五月(二日)の記事(元明天皇の詔勅)は、風土記の撰上を命じたものとして有名です。内容としては、各国の地名、鉱物・動植物・魚・昆虫等、土地の肥沃状態、山川原野の名称と由来、古老が伝える旧聞異事を調べて報告せよというものでした。

現存する風土記は、いずれも後世の写本ですが、ほぼ完全な形で残っている

のは、『出雲国風土記』のみです。また一部が欠けて残るものとしては、播磨、豊後、常陸、肥前の四力国。また、後世の書物などに引用された文章によって知ることができる風土記逸文は丹後、備後など五〇力国に及ぶのですが、出雲国風土記の例では、その完成が天平五年(733)ですから、二〇年もの年月を要しています。この事業がいかに困難であったかがわかります。そして、残念ながら上総国風土記は残されていません。しかし編纂された(されようとしていた)可能性はあるでしょう。そこには、西上総の範囲でいうと、市原郡・海上郡(市原市)、望陀郡(袖ヶ浦市・木更津市・君津市)、畔蒜郡(袖ヶ浦市・木更津市・君津市)、周淮郡(木更津市・君津市・富津市)、天羽郡(富津市)〔図1〕それぞれの郡郷名や産物・土地の状態・地名の起源・旧聞異事が集められていたのかもしれないのです。

■西上総の地理的な位置から

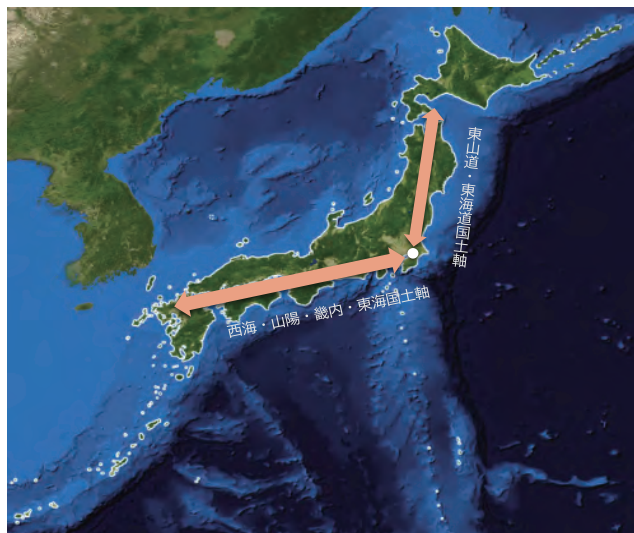


図2 西上総の位置と古代の東⇄西、南⇄北の国土軸
[NASA Earth Observatory 現在の日本列島の地形と海底地形図に加筆]

ていました。ここでは仮に、この東西の国土軸を、西海・山陽・畿内・東海国土軸、南北の国土軸を東山・東海国土軸としておきます。私は、この二つの国土軸の結節点にあることが、長い歴史をとおして西上総の個性やポテンシャルとなってきたのだと思っています。

さて、この西上総の風土・水土の中で暮らしを営んできた人々はどのような生き、何を遺してきたのでしょうか。出来るだけ小さな文化・生活の単位で地域の歴史を捉え、そこから少しずつ視野を広げていくという方法をとるならば、どのような世界が見えてくるのでしょうか。できれば、みなさまにも情報の提供やリクエストをしていただきながら、未来のための地域の記録を編んでいきたいのです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

井口 崇
いぐち たかし

一九五六年 和歌山県串本町（本州最南端の町）生まれ

前 袖ヶ浦市郷土博物館館長。専攻は日本考古学。（日本考古学協会会員）

古代上総国望陀郡産のブランド布で、遣唐使によって唐の皇帝に献上されていた「望陀布」とその紡織技術を研究テーマとしている。

現在は、和洋女子大学非常勤講師。

西上総の位置を改めて地

図で確認してみましょう。確かめ方はまず関東地方の中で、更には本州島全体の中でと、その範囲を広げていきましよう。そして、西上総の位置を起点にして東⇄西と南⇄北の関係で見えてみましよう。本州島の東⇄西関係で見るとほぼ東の端として、南⇄北関係で見るとほぼ南の端として捉えることができます。「図2」この図に示した東西、南北の「⇄」は古代の国土軸であり、それぞれが人・モノ・情報等が行き交う大動脈となつていきました。

檀信徒墓苑『溪照苑』ゴミステーション



墓参時のゴミ出しと分別のお願い

いつも、墓苑のゴミステーションを綺麗にお使い頂き、ありがとうございます。檀信徒墓苑『溪照苑』、縁の会樹木葬墓苑、それぞれにゴミ箱を設置しています。今一度、ゴミの分別についてご確認の上、ご協力をお願いいたします。

■びん・かん(写真右側)

ビン・缶のみ。ペットボトルは入れないでください。

■枯れた花(写真中央)

花を包んでいた紙やビニールは仕分け、もえるごみに入れてください。

■もえるごみ(写真左側)

ペットボトル・ビニール・プラスチック・紙類はこちらに入れてください。

縁の会樹木葬墓苑ゴミステーション



■苗箱・パレット(写真中央上部)

上部棚へ置いてください。

■草・花・土(写真右側)

右側のカートに入れてください。苗ポットや紙、ビニールは必ず仕分け、ビニール・空ポット入れに捨ててください。

■ビニール・空ポット(写真中央)

苗ポット他、ビニール、プラスチック、紙類は緑色のゴミ箱へ入れてください。

■段ボール(写真左側2台)

白色のゴミ箱(2台)へ入れてください。

上総自然学校（里山再生活動）

真光寺産、里山のお米
ご予約受け付け始めます。

今年も真光寺の田んぼではお米作りが始まっております。
農薬、化学肥料を一切使用せず、自然からの恵みだけで丁寧
に作り続けている真光寺のお米。今年もぜひ皆さままでご賞味
ください。



白米：2kg/¥1,100・5kg/¥2,500・10kg/¥5,000

玄米：2kg/¥1,000・5kg/¥2,250・10kg/¥4,500

ご注文は同封の注文書をFAXでお送りいただくか、お電話にてお申し込みください。

イベントだより



最後は釜のお風呂で温まります。



腰まで浸かりながら植えてくれました。



子供たちには泥遊びがメイン！

田植え
（五月十二日）



大人も子供も夢中で筍を掘ります。



たくさん芽が出ますように。



手際よく畔に泥を塗りつけていきます。

畔塗りと稲苗づくり（四月十四日）

田植えは紐を張り
それに沿って植えて
いきます。大人も子
供も一列に並んで行
儀良く植えていきま
すが、中には早々に
飽きてしまつて泥遊
びを始める子もいま
す。泥にまみれなが
ら田んぼを縦横無尽
に駆け回るのが、溜
まってきたガスを抜
き出す効果があるの
です。遊びに立って
いるのです。

米作りの始まりは
種まきと田んぼの整
備です。ザリガニや
モグラ、雑草によつ
て水が漏れ易くなつ
た畦に泥を塗りつけ
る修復作業。実は田
んぼの中を歩き回る
だけでも泥が攪拌さ
れて漏水の軽減につ
ながります。しかし
参加者の皆さんの一
番のお目当ては旬の
たけのこ。猪もびつ
くりするくらい掘つ
ていました。

2024年 自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- ・6月30日（日） イトトンボの観察会
- ・9月8日（日） 稲刈り
- ・9月29日（日） トンボの観察会

- ・10月5日（土） 収穫祭①
- ・10月6日（日） 収穫祭②
- ・11月17日（日） 里山散策と秋の収穫体験
- ・12月15日（日） しめ飾りとミニリースづくり

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち
第十四回・コガネグモ

詩人 大島 健夫

体長2cmを超える大きな体と、黄色と黒の虎パンツみたいな柄がよく目立つ草原のコモ・コガネグモ。開けた場所に『垂直円網』を張って獲物を待ち受ける姿は、いかにもコモの中のコモという感じです。この垂直円網自体、ほぼまん丸に近い形で白いX字型の帯がついていて、多くの人がステレオタイプにイメージするコモの巣そのものです。この網にうっかり昆虫が飛び込んでくると、その振動を感じたコモはすかさず出ていって、糸でぐるぐる巻きにして食べてしまいます。よく、ボコボコに殴ったりすることを「フクロにする」なんて言いますが、甘い甘い。ほんとうにフクロにするとはどういうことなのか、コガネグモと、その網にかかった犠牲者を見ればよくわかります。



フクロにされるムシヒキアブ

下の写真は、フクロにさされているムシヒキアブの仲間です。ムシヒキアブといえば、昆虫界においてはかなり上位の捕食者であり、植物の上などでじっと待ち構え、獲物が下を通りかかった瞬間に背後から飛びかかる「急降下急襲方式」を得意として時にはスズメバチやオニヤンマさえ捕食してしまふ、大変強い虫です。しかし、こうして網にかかってしまつてはどうしようもありません。糸でぐるぐる巻きにされて丸められてしまい、身動きもならないまま食べられてしまうのです。手も足も出ないとはこのことです。

私は趣味で空手をやっていますが、野生の生き物を見ると、「ルールを守って戦うこと」を重んじることは、人間とそうでないものの大きな違いであるように

うに思えます。格闘技では、痛い思いはしても命までとられるという状況は、通常なかなかあるものではありません。相手が明らかに自分より強くても、まいったすれば誰かが止めてくれるし、稽古なり試合なりが終われば家に帰れます。しかし、野生の生き物の食物連鎖の世界においては、負けた方は確実に死にます。そこにはちやうど、私たちが言葉で言う「フクロにする」と、実際にコガネグモがムシヒキアブをフクロにするのと同じくらいの違いがあります。

そんな場面があるとは思えませんが、おそらく、コガネグモが網を張らずにうろろろしているところをムシヒキアブが空中から襲えば、ムシヒキアブは1秒で勝てるでしょう。でも現実には、人間以外の生き物は、命がかかっている関係上、とにかく何が何でも自分の好きな設定でしか戦おうとしません。空手家が寝技を習いに行ったり、柔道家がパンチやキックを習いに行ったりということは、人間だから有り得ることです、生き物の世界では自分の得意なフィールドに引きずり込めるかどうか全ての根幹です。コモに向かつて「網を張るのは卑怯だ」と言ったり、カマキリに向かって「鎌の使用は反則だ」なんていう生き物は、あたりまえですがどこにもいません。あまりにも何でもありであり過ぎて、逆にフエアな感じがするくらいです。

相手を網で捕まえさえすれば最強のコガネグモは、かつてはきわめて普通に見られるコモでしたが、近年、草原環境の消失や、農薬の問題などで各地で減少し、どちらかというと「見つけると嬉しいコモ」になってしまっていました。現在、コガネグモは千葉県のレッドリストでは「C（要保護生物）」に指定されています。もともと、農薬の使用量が少なく、昆虫の豊富な谷津田の周辺、そう、川原井のようなどころにはまだ比較的残っています。夏の間、水田のそばの電気柵などで、その姿を見ることができます。川原井のコガネグモは、どうも県内の他地域のものより大きくて太っているような気がしてなりません。栄養がよいのでしょうか……。

ちなみに、ここまで書いてきたことは、全て雌のコガネグモに關してのことです。

雄のコガネグモは雌よりはるかに小さく、体長わずかに数mmでしかありません。体色もぐつと地味な褐色をしており、成長すると自分で網を張らなくなり、雌の網にやってきて、その隅っこで居候のような暮らしをします。うらやましいヒモ暮らしのように聞こえるけれど、雌は雄を食べてしまうこともありますから、同居は命がけ、交尾はもっと命がけです。結局、野生の生き物の世界では全てが命がけなのです。いろいろと命をかけて産み出された卵は秋に孵化して子グモとなり、一年間かけて成長、またいろいろと命をかけて暮らした末、翌年の秋までには寿命を迎えます。運良く成長できたコガネグモは、たった一年の間に、コガネグモとして経験するべき全てを経験して死んでゆくことになります。



静かに獲物を待つコガネグモの雌

コガネグモ *Argiope amoena*
クモ目コガネグモ科
千葉県レッドリスト・C（要保護生物）

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉市野鳥の会会長、日本トンボ学会会員。環境省希少野生動植物種保存推進員。近著「千葉の昆虫図鑑」（メイツ出版）好評発売中。

緑の会施食法要

◎7月 7日(日) 13時～

◎8月11日(日) 11時～

◎8月11日(日) 13時半～

上記日程で緑の会施食法要（お盆のご供養）を行います。施食法要は自身のご先祖はもとより、有無縁の仏さま全ての諸精霊をご供養する法要です。また、亡くなられて初めてお盆にあたる精霊はご葬儀時の白木位牌を精霊棚（施食棚）に供え特別にご回向させていただきます。厳しい暑さの時期ではありますが、近在の寺院僧侶をお迎えし厳修いたしますので、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

●お申し込み事項

①ご出席者のお名前、人数、お弁当の数（お一人 1,000円）

大勢でご参列の場合には合同法要とは別に日時をお取り下さいますようお願い申し上げます。

ご自宅へもお伺いいたしますので下記《個別の新盆供養のご案内》をご参照ください。

②ご出席の日時

③送迎の有無（お迎えの時間は裏表紙をご参照ください）

④花とうば供養の有無（1本 2,000円）

花とうばのお申し込みは、事前に同封の申込用紙にご記入の上、FAXまたはLINEアプリで申込用紙の写真をお送りください。お電話でも結構です。お申し込み者と故人のお名前を知らせ下さい。

※法要に欠席の方もとうば供養は受け付けいたします。

●ご供養のお布施について

新盆供養の方、一般参加の方どちらもお布施は随意ですが、新盆精霊の供養は30,000～50,000円程度、一般の方は3,000円～10,000円程度を目安にお包みください。

《個別の新盆供養のご案内》

上記の施食法要は合同供養ですが、年忌のご法事と同じ要領で個別に新盆のご供養もいたします。

また、ご自宅にて家族一同で御霊を迎えご供養したいという方は、僧侶がご自宅に出向きます。

所要時間は30分程です。7月盆、8月盆ともに対応いたしますので、お気軽にお申し込みください。

ご供養のお布施については30,000円～50,000円程度を目安にお包みください。

（※ご自宅でのご供養の場合、車代3,000円～10,000円程度を別途お包みいただければと存じます。）

緑の会秋彼岸法要

◎9月22日(日) 11時～

下記ご確認の上、お電話にてお申し込みください。

①ご参加の人数 ②送迎の有無

③お弁当の要・不要 ※お弁当代として1,000円程度のお布施をお包みください。

④花とうばのお申し込みは同封の「花とうば供養申込書」をご利用ください。

七日法要

《緑の会会員》

日時：7月 7日（日）	11時より授戒式・月例供養、昼食（弁当）、午後は7月盆 施食法要
8月 11日（日）	施食法要（お盆法要）11時より午前の部、13時半より午後の部
9月 7日（土）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）、午後は坐禅・写経
10月 7日（月）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）、午後は坐禅・写経
11月 3日（日）	緑の会総会 9月中にお手紙でご案内いたします。
12月 7日（土）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）、午後は境内の大掃除

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

山門大施食

《檀信徒》

日時：8月9日（金）14時より

お盆恒例の先祖供養・新盆供養を行います。

山門秋彼岸法要

《檀信徒》

日時：9月22日（日）14時より

秋の彼岸供養会を行います。

戒名を考える会

《縁の会会員 未授戒の方》

日時：9月9日（月）

午前11時より午後2時半頃

参加費：3,000円（昼食付）

定員：10名

午前中は戒名の意味や意義、仏教知識について学びます。精進料理の昼食をはさみ、午後は住職といっしょに、漢和辞典を引きながら実際にご自身の戒名を考えます。

※要事前申込

※持ち物：漢和辞典

真光寺囲碁の会

《どなたでも参加できます》

日時：7月4日（木）～5日（金）

11月25日（月）～26日（火）

14時開始～翌日13時解散

参加費：8,000円 1泊3食

囲碁初心者の方も大歓迎です。

両日とも日帰りのご参加も可能ですのでお申しつけ下さい。

※要事前申込

精進料理と聖典講読の会

《どなたでも参加できます》

日時：7月30日（火） | 10月9日（水）

9月19日（木） | 11月27日（水）

午前11時～午後2時30分

住職による仏教解説を行います。精進料理の昼食をはさみ、午後は自由参加にて坐禅や写経をしていただきます。

参加費：3,000円程度 昼食付

※要予約

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

ご詠歌はお釈迦様、お祖師様の教えや、亡き人を偲ぶ心を詞に表し、音楽に乗せてお唱えするものです。初めての方にも丁寧にご指導いたします。

参加費：無料

7月 9日・23日

8月 6日

9月 3日・17日

10月 1日・15日

11月 5日・19日

12月 3日（忘年会）

時間：15時～16時半

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月 第2・第4土曜日

15時00分～16時30分

布施：500円程度

初心者の方も気軽にご参加下さい。初めての方は坐り方の指導をいたしますので、14時半までにお越し下さい。

仏像彫刻体験教室

《どなたでも参加できます》

日時：毎月 第1・第3水曜日

13時30分～16時30分

費用：1回4,000円

※初回の方は要事前申込

お申し込みは仏師 鈴木先生まで（TEL. 0438-63-2848）

写経会

《どなたでも参加できます》

日時：7月30日（火）

9月19日（木）

10月9日（水）

11月27日（水）

13時00分～14時30分

布施：1000円程度

写経は祈願・供養の他、精神を落ち着けるためにお経を書写するものです。夕照庵（小書院）にテーブルと椅子を置きました。ゆったりとした静かな空間で、心を整えて写経ができます。写経会を定期的に開催しておりますので、ぜひご参加ください。

※道具は用意してありますが、ご持参されても結構です。

※要予約

真光寺団参旅行のご案内

令和六年九月二十九日(日)〜十月一日(火)

おつてみよ。

真光寺の団参旅行。

琴参閣

こんぴらさんの門前 琴平温泉
温泉とささやかな宴会で新たな友と思い出を作ろう！

5つ星の宿
観光経済新聞社認定の

快適な宿坊



善通寺

円通寺

良寛修行の寺



御朱印帳必携
八十八箇所
オムニバス
一番 霊山寺
八十四番 国分寺
八十八番 屋島寺
大窪寺

西の巨大道場

洞松寺



本場さめうどん
定番スポットも！



瀬戸大橋 鳴門 渦潮

今回の旅行は岡山・香川・徳島の名刹、修行三昧の寺めぐり！
世界の禅センター洞松寺、今なお人を引き付ける八十八箇所霊場、現代に生きる人々たちを応援する喝破道場などを見学します。古今東西の祈りと修行を垣間見、瀬戸内の美しい景色を堪能することができる2泊3日です。
一泊目は快適な宿坊善通寺、二泊目は琴平温泉にて交流の宴をご準備しています。
団参旅行はお一人様大歓迎です。はじめての方と思い出を共にする、出会いと修行の旅。みんなで行こう！
しゅらしゅしゅしゅ。

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方(君津発千葉行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方(快速君津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時30分→袖ヶ浦BT 9時35分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時05分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発8時30分→袖ヶ浦BT 9時27分着
- ・新宿発8時30分→袖ヶ浦BT 9時30分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時05分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方(快速逗子行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方(千葉駅発木更津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

※新宿発、土日祝の午後の送迎は高速バスが停車しなくなったため無くなりました。

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・~~新宿発00時00分→袖ヶ浦BT00時00分着~~
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時35分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発12時00分→袖ヶ浦BT13時02分着
- ・新宿発11時30分→袖ヶ浦BT12時35分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時35分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) / 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

Email ennokai@shinko-ji.jp (縁の会) / satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)



SHINKOJI.ZEN

Instagram始めました！